地球科学と異分野の融合イベント：アースラウンジ「Our World, Other Worlds」日本科学未来館での試み

Earth Science event collaborated with art in Miraikan: Earth Lounge

岡山 悠子 [1]; 森田 菜絵 [1]; 櫻井 英雄 [1]; 杠 知子 [1]; 山口 珠美 [2]
Yuko Okayama[1]; Nae Morita[1]; Hideo Sakurai[1]; Tomoko Yuzuriha[1]; Tamami Yamaguchi[2]

[1] 未来館; [2] 未来館

[1] Miraikan; [2] Miraikan

http://www.miraikan.jst.go.jp/

日本科学未来館（2001 年開館、館長：毛利衛）は、先端の科学技術と人とをつなぐサイエンスミュージアムであり、来館者数は年間 70 万人を越える。来館者は展示を見るだけでなく、科学コミュニケーターとの対話で科学に対する興味と理解を深めることができる。これまでに様々なツールやメディアを通し、アート・デザイン・音楽といった異分野との積極的なコラボレーションを図り、先端科学が切りひらく新しいものの見方と人々が出会う場を提供してきた。その取り組みの一つとして、地球をテーマにしたユニークな研究プロジェクトであるシリーズイベント「アースラウンジ」の活動を報告する。

『アースラウンジシリーズ vol.6 「Our World, Other Worlds －進行形の地球論」』（実施：2008 年 9 月 27 日-10 月 19 日）は、研究現場の先端科学者たちが夢中で取り組んでいる“ 地球についての問いとそれを解き明かすプロセス ”を実感として共有・追体験できる場をつくり、来館者に新たな地球観やインスピレーションを与えることを目的として開催した。コンセプトの「Our World, Other Worlds」とは、私たちの世界 (Our World)、つまり地球のことを深く知ることは、私たちがこれまで知らなかった他の世界 (Other Worlds) への扉を開けること、ということである。このような知的好奇心にもとづく新しい地球像の探求（地球論）は、現在進行形であり、科学者が Other Worlds に出会う喜びと興奮を、一般の人々に感じてもらえることをねらいとした。また、科学者ならではの明快さ、謙虚さ、情熱、ストイックさ、視点の広がりなどを、ライブ感のある音楽や言葉（ラップ）、グラフィティなどと融合して表現することで、より広い客層に訴求するイベントを目指した。

共催機関として、東京工業大学 21 世紀 COE プログラム「地球：人の住む惑星ができるまで」、および、独立行政法人海洋研究開発機構 (JAMSTEC) の海底掘削研究の諸グループにご協力いただいた。東工大 COE の研究目標は、46 億年の地球史の総合的解明であり、イベントでは、地質学を原点に生命科学から天体物理、果ては文明論にまで包括的な内容を扱った。また、JAMSTEC の研究者と共同で、統合国際深海掘削計画（IODP）を紹介した。特に IBM（伊豆ボニンマリアナ弧掘削）の最新データを取り上げ、実験等の要素も織り交ぜたイベントを開催した。

第一線の研究者・研究領域とカルチャー系のコミュニティをつなげることをねらったトーク＆ライブイベントでは、新規来館者層（音楽、文学、ストリートカルチャーファン）の開拓に成果をあげた。このような、研究「成果」のみならず、科学研究という営みの価値や魅力にスポットを当てて開催した、今回のイベントの成果と今後の課題をポスターにて議論する。